

平成 25 年度水産研究成果情報

課題名：低塩分時の活性処理がノリ葉状体の生育に及ぼす影響

[背景・ねらい]

平成 24 年度のノリ養殖漁期は、育苗期に降水量が多く、塩分が平年より低い傾向にあり、そのような中でアオノリ対策の活性処理を行った網では、ノリ葉状体の生長不良が観察された。このことから、低塩分時での活性処理が葉状体に障害を与えていることが考えられたため、育苗期における低塩分時の活性処理が葉状体の生育に与える影響について調べた。

[成果]

1.室内試験

葉長 2～3cm のノリ葉状体を用いて、異なる塩分毎の活性処理とノリ葉状体の障害度との関係について調べた結果、塩分 15～30 までは障害度が 3%前後と低かった。一方、塩分 0 および塩分 10 では、障害度が 100%および 56%と、塩分 10 以下では障害度が著しく高かった(図 1)。

※障害度：全細胞に対する障害を受けた細胞の割合

2.野外試験

塩分 15 未満の低塩分で活性処理を行った後の葉状体の生長について野外試験(平成 24 年 10 月 16 日～11 月 21 日)で調べた。その結果、11 月 6 日の活性処理後の葉長は、低塩分で活性処理を行った葉状体ほど小さい傾向にあり、活性処理後 15 日目の 11 月 21 日では、塩分 6.7、13.4 および 26.9 で、47.7、92.9 および 143.6mm と、有意な差が認められた(図 2)。

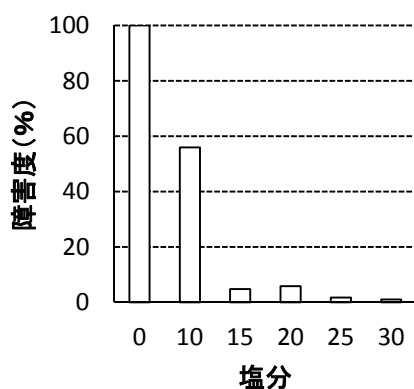


図 1 塩分毎の活性処理と障害度の関係

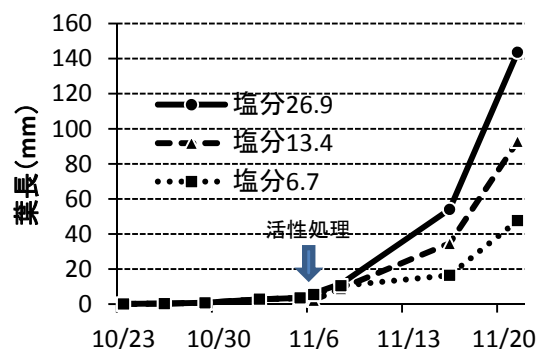


図 2 野外養殖における活性処理後の葉長の変化

以上のことから、塩分 15 未満で活性処理を行った場合、葉状体が著しく障害を受け、その後の生長も悪くなることが明らかとなった。

[課題・問題点]

特になし。

[今後の対応]

塩分 15 未満の活性処理はノリ葉状体の生育に悪影響を与えることから、漁業者が低塩分時に活性処理を実施する場合には、塩分 15 以上となるように海水に塩を添加するよう、指導に努める。

研究期間： 平成 24～25 年

研究担当者： ノリ研究担当 山田 秀樹